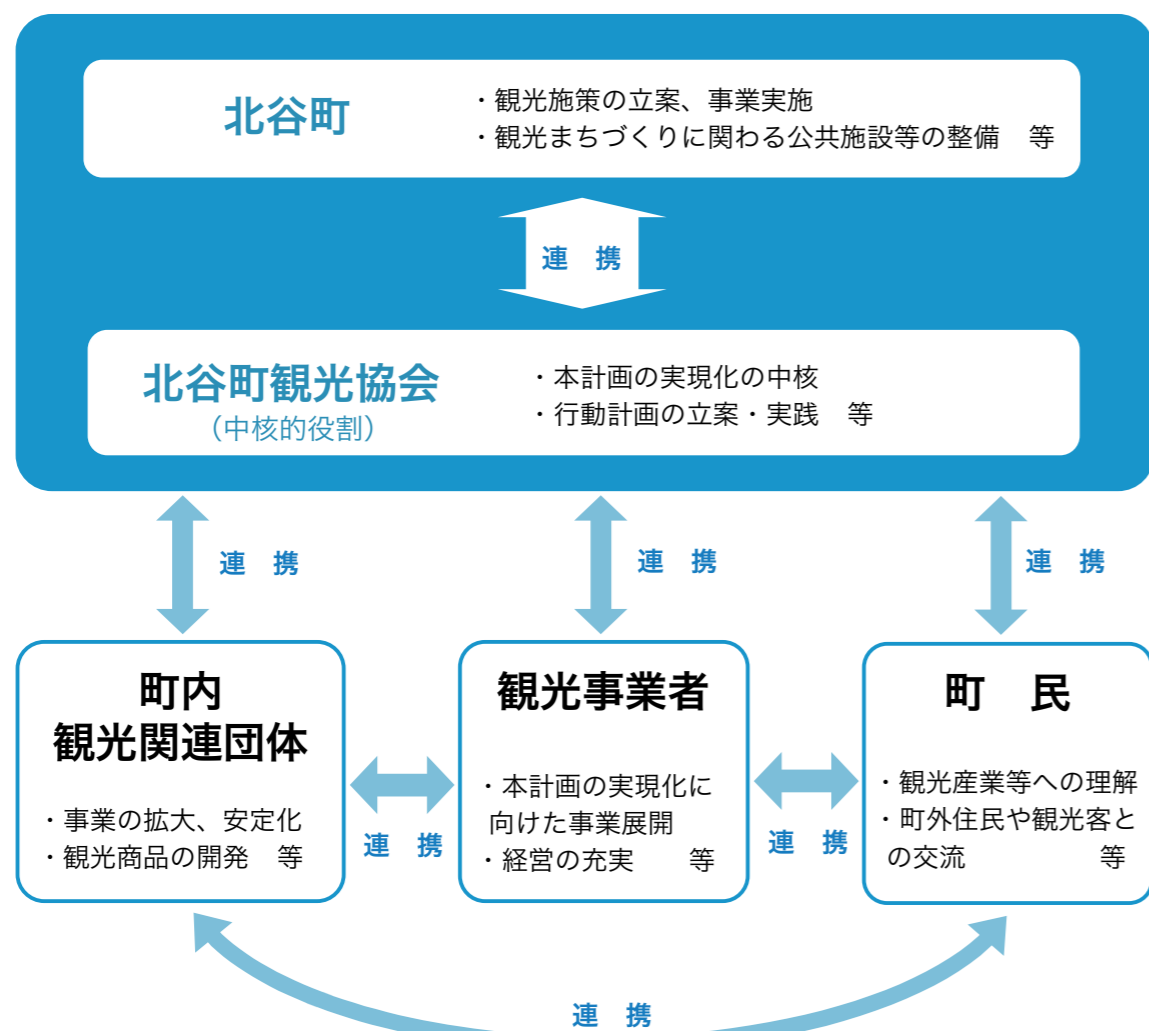


6 計画の推進

本町の観光は、自然、歴史・文化を基盤として多様な観光・リゾート施設及びその関連施設、そして、観光に携わる様々な人々の活動によって展開され、今後も町の基幹産業としての発展が期待されています。本計画では「観光まちづくり」を基本理念に掲げ、観光とまちづくりを一体的に推進していくこととしています。

この「観光まちづくり」の主体は、町、観光協会、観光関連団体、観光事業者及び町民であり、これらの各主体の役割を明確にした上で、力の結集と連携を図っていく必要があります。また、各主体を横断的に連携させ、調整を図ることが重要であり、それが実施できる推進体制の構築が求められます。

そこで、本町の観光まちづくりにおいては、観光協会を中核とし、町、観光関連団体、観光事業者及び町民（自治会や町民の各種団体を含む）が、情報交換や意見交換を通じて相互に連携しながら、計画の実現化や進行管理等を行います。また、各主体が本計画で示された目指すべき方向性を共有し、観光まちづくりの推進を図ります。



北谷町建設経済部 観光課
〒904-0192 沖縄県中頭郡北谷町字桑江226番地 TEL: 098-936-1234 (代表)

第1次 北谷町 観光振興計画



改訂版 【概要版】



1 はじめに

(1) 計画の背景・目的等

観光の国際・国内競争力の強化

沖縄県の入域観光客数は年々増加しており、平成30年度には過去最高の1,000万4,300人が訪れました。また、外国人観光客も増加しており、平成30年度には約300万人となっています。今後についても、令和2年に完成予定である那覇空港第二滑走路の供用に伴い、沖縄県及び北谷町を訪れる観光客数は増加することが予想されます。

北谷町は、戦後、米軍関係施設の返還とともに西海岸地域の整備開発が進み、大型ホテルや飲食、ショッピング、アミューズメント施設の立地等により発展を遂げてまいりました。平成26年に北谷町観光情報センターが完成し、また、平成28年には水産業と観光・レクリエーション等のマリン産業が融合した北谷町フィッシャリーナ地区の土地処分が完了し、観光地域として成長し続けています。さらに、国指定史跡伊礼原遺跡の整備及び本町の歴史的資料、文化財を展示する博物館の建設を進めるなど、新たな観光の提供が期待されています。

そのような中、島嶼県である沖縄の観光スタイルは、周遊観光や立ち寄り型観光が主流となっており、今後、本町への誘客の促進と滞在時間の拡大を図るとともに、リピーターを獲得するため、観光振興施策の持続的な展開が求められています。

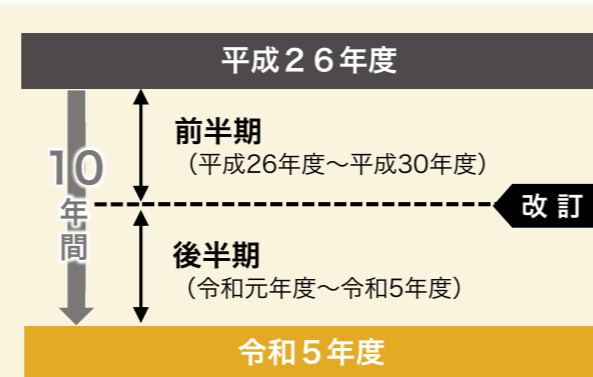
観光の国際・国内競争力を強化するため、「世界水準の都市型オーシャンフロント・リゾート地」としての魅力に磨きをかけるとともに、地域の観光資源を活かし、さらに質を高めた北谷観光を政策的に推進していくことを目的として、平成26年度に観光施策の総合的・体系的な指針となる「北谷町観光振興計画」を策定しました。

現在、計画策定から5年間の経過し、10年間の計画期間のうち前半期（平成26年度～平成30年度）が終了しました。そこで、令和元年度に前半期の評価と検証を行い、観光に関連する法制度等の動向や社会情勢の変化等に対応するとともに、北谷町観光振興計画審議会の意見を踏まえ、本計画の中間見直しを行いました。

(2) 計画期間

本計画の計画期間は、計画策定時から10年間とし、後半期（令和元年度～令和5年度）の令和5年度を目標最終年次とします。

また、計画の進捗状況、社会情勢の変化等に対応するため、評価と検証調査を行った上で、第2次計画に向けての見直しを行うものとします。

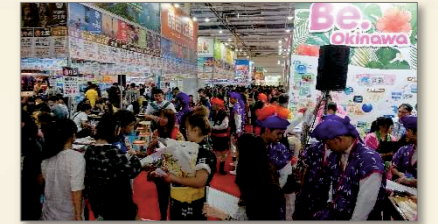


本計画の前半期（平成26年度～平成30年度）における取り組みを踏まえ、本町がさらに質を高めた観光地域として発展していくためには、後半期（令和元年度～令和5年度）の5年間で、戦略的な視点で効果的・効率的に推進していく必要があります。そこで、他施策への波及効果が高く、重点的に実施する必要性が高い以下の施策を重点施策として位置づけます。

重点施策

■ 観光客誘客・観光物産プロモーションの推進強化

より多くの観光客を獲得するためには、観光客が北谷町を訪れる仕掛けをつくっていくことが重要となります。仕掛けづくりのためには、誰に、何を、どのように訴求していくかを考える必要があり、情報発信など総合的に取り組みます。



■ 着地型観光プログラムの企画・開発及び販売促進

地域の独自性をどのように魅力として活用するかを考えていく必要があり、新たな観光資源の創出や魅力の向上につながります。また、変化の速い観光市場の動向を的確に捉えるため、観光関連団体、観光事業者及び町民との情報交換を密にし、開発及び販売促進に取り組みます。



■ マーケティング戦略の構築

マーケティング戦略の構築には、地域の強みや周辺観光地域における競争優位性を確保するための分析や調査が欠かせず、観光振興を効果的に推進するための基礎となるよう取り組みます。

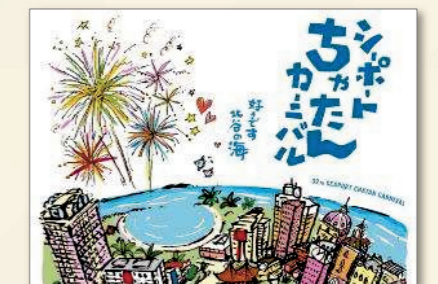
■ 観光情報センターの機能強化

観光客の多様なニーズを把握し、的確な情報提供や案内を行うことが北谷観光の満足度向上につながり、再来訪の期待が高まります。そのためには、観光ルート、多言語対応、サイン設置など観光情報の充実に取り組みます。



■ 観光イベントの推進

観光イベントの推進を図ることで、メディアへの露出が増えるなど「北谷-CHATAN」の名称が全国・海外に浸透し、観光客を吸引する効果が期待できます。観光振興において有効な手段として取り組みます。



5 施策

観光振興ビジョン及び基本方針を実現するための施策は以下の通りです。

ビジョン	基本方針	基本施策	施策メニュー
沖縄ウオーターフロント・リゾート 北谷 一生の思い出に残る色々な魅力が散りばめられた美しい観光都市	方針1 北谷ブランドの アピール	(1) ちゃたん観光まちづくり宣言	① 観光まちづくり都市宣言事業の実施 ② 観光の象徴的ブランド戦略の展開・管理 ③ 観光振興計画の推進 ④ SDGsに貢献できる観光まちづくり ※新規
		(2) 観光まちづくり基本戦略の構築	⑤ 観光客誘客・観光物産プロモーションの推進強化 ※新規 ⑥ 着地型観光プログラムの企画・開発及び販売促進 ⑦ 自治体連携の推進 ※新規 ⑧ マーケティング戦略の構築 ⑨ 観光大使の活用 ※新規
	方針2 北谷観光のネットワーク形成	(3) 観光拠点の拡充及び独自性の強化	⑩ 観光まちづくりの共通ルールの検討 ⑪ マリンスポーツ・マリナクティビティの拡充 ⑫ 景観・眺望スポットの創出と周知 ⑬ 観光拠点の魅力向上と創出 ⑭ 北谷運動公園の整備 ※新規 ⑮ 歴史的遺構・自然景勝地の保全・活用 ⑯ リゾートウェディングの推進 ⑰ 新たな観光資源の創出 ⑱ 名物料理・特産品づくりの推進
		(4) 交通アクセスの充実	⑲ 交通渋滞対策の推進 ⑳ 駐車場の充実 ㉑ 周遊アクセス確保のための域内交通の整備 ㉒ サイクルロード・散策道(街歩き)の整備検討 ㉓ 西海岸歩行者ネットワーク整備事業の推進 ※新規
		(5) 安全対策への配慮	㉔ 観光危機管理計画の策定 ※新規 ㉕ 安全・防犯パトロールの実施 ㉖ 防災情報等の提供
	方針3 情報発信・研究開発	(6) 多言語による情報発信の充実	㉗ 情報の共有化及び情報発信の強化 ㉘ 観光情報センターの機能強化 ㉙ 観光パンフレット、文化財・医療マップの充実 ㉚ イメージキャラクター「ちゃたん」の活用推進 ㉛ インターネット等情報環境の充実 ㉜ シンボル・ランドマーク的施設への支援・協力と観光モニュメントの設置 ㉝ シティドレッシング(都市装飾)の導入 ※新規
		(7) イベントの開発・促進	㉞ 観光イベントの推進 ㉟ スポーツ・ツーリズムの推進 ※新規 ㊱ MICE事業の推進 ※新規 ㊲ ふるさと納税制度等の活用推進 ※新規 ㊳ 新規イベントの開発
	方針4 観光まちづくり推進体制の確立	(8) 観光まちづくりへの町民参加	㉜③ 観光人材の育成 ㉜④ 町民文化活動の支援 ㉜⑤ 環境美化活動の実施
		(9) 観光まちづくり関連団体等の組織拡充・連携	㉜② 北谷町観光まちづくり戦略会議(仮称)の創設 ㉜③ 観光まちづくりを牽引する観光関連事業者との連携 ㉜④ 北谷町観光協会等の観光関連団体等への支援・協力 ㉜⑤ 行政組織体制の強化 ※新規

2 北谷観光の特徴

本町における観光の特徴は以下の通りです。

本島中部の主要観光地域



本町は「美浜アメリカンビレッジ」や「北谷町フィッシャリーナ地区」等、老若男女問わず誘客力の高い観光スポットを有しており、本島中部エリアの主要観光地域となっています。

様々な夕日の魅力とマリナクティビティ等の充実



本町はマリナクティビティ等を楽しめる「宮城・砂辺海岸」や「サンセットビーチ」を有しています。また、西海岸で見ることが出来るダイナミックな夕日の美しさも魅力となっています。

沖縄リゾートを代表する都市型オーシャンフロント・リゾート地



本町の西海岸地域はビーチや商業・宿泊施設等が集積しており、世界で通用する観光リゾートの雰囲気や回遊性を持っています。

リゾートホテル等の宿泊施設が集積したエリア



本町は優れた立地や、多様な形態の宿泊施設が充実しており、沖縄県の滞在型観光拠点のひとつとなっています。

美浜公共駐車場や交通アクセスの多様性



本町は約1,500台収容可能な無料の公共駐車場を有しているほか、バス・タクシー・海上高速船等の多様な交通アクセスに対応しています。

集客力の高い観光イベント



本町では、「シーポート北谷カーニバル」や「北谷ニライハーリー」など、ソフトパワーによる集客力の高い観光イベントが年間を通じて多数行われています。

外国人観光客(インバウンド)にも対応した観光案内所



本町では日本政府観光局認定の外国人観光案内所・カテゴリー2を有しており、英語・中国語・韓国語も対応可能な案内を提供しています。

3 北谷観光の課題

国や沖縄県の観光動向や観光施策等の観光を取り巻く社会動向と北谷観光の現状や特徴を踏まえた、本町の観光の課題は以下の通りです。

課題

1 北谷の認知度の向上

- 象徴的なブランドの確立
- 情報発信の継続

課題

2 北谷観光の魅力度の向上

- 歴史・文化資源の活用
- 観光資源の高付加価値化
- 戦略的な観光コンテンツの提供
- 交通アクセス性の向上
- 回遊性の向上
- 快適性・安全性の向上

課題

3 推進体制の強化

- 関係者の役割の明確化と共通認識
- 連携・協力するための仕組みづくり

課題

4 まちづくりへの展開

- 観光を通じた地域活性化
- 受入れ環境の充実
- 民間活力の導入
- SDGsへの貢献

本町が観光振興を推進する上で観光客に選ばれる観光地域としていくためには、認知度や観光資源の魅力の向上を図るとともに、観光客が訪れる動機付けを高めていくことが重要となります。

また、観光客を受け入れていくためには、町民、観光関連事業者、観光関連団体、観光協会、行政が連携・協力して取り組んでいくための体制強化が必要となります。

一方、観光客の誘客にこだわり、観光客が地域を訪れることによって発生する交通渋滞や風紀の乱れなど、いわゆる、オーバーツーリズムによって地域に悪影響をもたらさぬよう最大限に配慮し、安全・安心・快適な観光地域づくりに取り組まなければなりません。

このように、町民の暮らしを豊かにし、町民が誇りに思える魅力的かつ持続的な地域を創ることは、観光客が来訪したい観光地域を創ることに繋がります。

4 基本構想



(1) 観光振興ビジョン

観光まちづくりを進めていく上で、「北谷の認知度の向上」、「北谷観光の魅力度の向上」、「推進体制の強化」、「まちづくりへの展開」の4つの課題に対応するため、対外的（県内・県外・外国観光客や観光業者）なアピール及び町民、事業者、行政にとって同一の指針となる本町の「観光振興ビジョン」を以下の通り定めます。

沖縄 ウォーターフロント・リゾート 北谷

一生の思い出に残る色々な魅力が散りばめられた美しい観光都市

(2) 基本方針

上記の観光振興ビジョンを達成するための基本的な方向として、以下の4つを基本方針とします。

基本方針

1 北谷ブランドのアピール

北谷観光のブランドイメージの統一と、町民・観光事業者・行政の意識改革・理解を深めることを目的に、北谷観光が目指す方向性や取り組みに一貫性を持たせるためのトータルな活動を進めます。

基本方針

2 北谷観光のネットワーク形成

砂辺・宮城エリア、美浜エリア、北前エリアからなる北谷の西海岸地域のさらなる進化を目指すとともに、国道58号よりも東側のエリアとの連携も見据え、北谷町全体での観光地域づくりを目指します。

基本方針

3 情報発信・研究開発

北谷の認知度、北谷観光の魅力度の向上のため、観光に関する多様な情報を発信するとともに、地域資源を活かした新たな観光コンテンツの提供に向けた研究開発を進めます。

基本方針

4 観光まちづくり推進体制の確立

町民・観光事業者・観光関連団体・観光協会・行政が連携協力して取り組む体制を確立します。